

2026年度大学院博士前期課程一般入学試験（第Ⅰ期）問題

研 究 科 名	科 目 名
文学研究科 社会学専攻	共通問題

以下の7つの用語のうち、4つを選んで200字から300字で簡潔に説明しなさい。
なお、選択した問題の番号を必ず記載すること。

- 1. 逸脱と犯罪
- 2. ジェンダー
- 3. 社会化
- 4. 文化資本
- 5. 社会保障の機能と役割
- 6. ノーマライゼーション
- 7. 地域包括ケアシステム

解答または解答例：

Sample Answer(s) or Outline：

1. 逸脱と犯罪

逸脱とは、社会において一般的に受け入れられている規範やルールから外れた行為を指す概念である。社会には人々が守るべき行動基準が存在し、それに反する行為は逸脱とみなされる。例えば、公共の場で大声を出して迷惑をかける行為や、学校の規則を破る行為なども逸脱に含まれる。一方、犯罪とは法律によって禁止され、国家による処罰の対象となる行為を指す。窃盗や暴力行為などは典型的な犯罪である。このように、犯罪は逸脱行為の一種であるが、すべての逸脱が犯罪になるわけではない。逸脱は社会規範に基づいて判断され、犯罪は法的基準によって判断される点に違いがある。

2. ジェンダー

ジェンダーとは、生物学的な性別（セックス）とは異なり、社会や文化の中で形成される「男性らしさ」「女性らしさ」といった役割や期待、行動様式を指す概念である。社会によって男女に求められる役割は異なり、時代の変化とともにその内容も変わる。例えば、かつては「男性は働き、女性は家庭を守る」という役割分担が強く意識されていたが、現在では女性の社会進出や男女共同参画が進み、その考え方は大きく変化している。ジェンダーという概念は、こうした社会的に作られた性別役割を理解し、男女の不平等や差別の問題を考えるうえで重要な視点となっている。

3. 社会化

社会化とは、人が社会の一員として生活していくために、社会の価値観・規範・行動様式などを学び身につけていく過程を指す。人は生まれたときから社会のルールを知っているわけではなく、家族や学校、地域社会、友人関係などとの関わりを通して、言語や礼儀、役割意識などを習得していく。この過程により、個人は社会の中で適切に行動できるようになり、社会秩序が維持されると考えられる。例えば、家庭であいさつや生活習慣を学び、学校で集団生活のルールや協力の重要性を学ぶことは社会化の典型的な例である。社会化は子ども期だけでなく、就職や結婚など新しい環境に適応する際にも続いていく。

4. 文化資本

文化資本とは、人が家庭や教育を通して身につける知識・教養・言語能力・価値観・文化的習慣などの資源を指し、社会的地位や教育達成に影響を与えるとされる概念である。この概念はフランスの社会学者であるピエール・ブルデューによって提唱された。文化資本には、本や芸術に親しむ習慣、豊かな語彙や表現力、学歴や資格などが含まれる。例えば、家庭で読書や芸術に触れる機会が多い子どもは学校教育にも適応しやすく、学業成果を上げやすい傾向があるとされる。このように文化資本は、世代を超えて社会階層の再生産に関わる重要な要因と考えられている。

5. 社会保障の機能と役割

社会保障は、国民の生活の安定と向上、所得再分配、経済安定を支える制度であり、生活のリスクに備えるセーフティネットとして機能するものである。

社会保障制度の目的は、国民が安心して暮らすことのできる基盤を整えることであり、これにより、国民一人ひとりが安心してチャレンジできる社会を作ることができる。社会保障制度は、病気やケガ、出産、死亡、老齢、障がい、失業、介護、貧困などのリスクに対して、生活の安定や安心を提供することを目的としている。

6. ノーマライゼーション

(基本的解答)

ノーマライゼーションは、日々の生活に支障がある者や高齢者などを特別視せず、社会の中で自然に暮らせる環境を整えることを重視する考え方である。これは「障害を有する者を健常者に近

づける」のではなく、障害を持つ方々がその人らしく生活できる社会を構築することを目的としている。具体的には、学校や職場、余暇活動など、日常生活のあらゆる場面で平等な選択肢を持てることが求められている。

ノーマライゼーションの理念は、デンマークのニルス・エリク・バンク・ミケルセンによって1950年代後半に提唱されました。この理念は、障害者が「普通の」生活を送る権利を持ち、その生活を支える社会を構築することを目指している。

この理念は、障害者が社会の一員として普通の生活を送る権利を強調し、障害者福祉の基本的な考え方として広く受け入れられている。

(ノーマライゼーションの生みの親であるバンク・ミケルセンのことを記載した例)

バンク・ミケルセンは、知的障害者が施設に隔離され、非人間的な環境で生活していることに問題を感じ、知的障害者も一般市民と同じ生活条件を享受すべきであると主張し、これを「ノーマライゼーション」と名付けた。

主張の核心は「普通の生活条件」「社会の構築」「人間の尊厳」である。

普通の生活条件：障害者も障害のない人と同じように、普通の生活条件を享受する権利がある。

社会の構築：障害者が普通の生活を送るための社会的な支援や制度を整備する必要がある。

人間の尊厳：障害者の人間としての尊厳を尊重し、彼らが自立した生活を送ることを支援する。

この理念は、北欧諸国を中心に広まり、障害者福祉政策の転換を促しました。具体的には、施設から地域社会への移行（脱施設化）や、障害者の地域生活の実現が進められた。

7. 地域包括ケアシステム

地域包括ケアシステムは、要介護状態となっても、住み慣れた地域で自分らしい生活を最後まで続けることができるように地域内で助け合う体制を構築することをいう。地域包括ケアシステムは、それぞれの地域の実情に合った医療・介護・予防・住まい・生活支援が一体的に提供される体制を目指しています。介護保険制度の枠内でだけ完結するものではなく、介護保険制度と医療保険制度の両分野から、高齢者を地域で支えていくものである。

(上記までも正解)

地域包括ケアシステムは、戦後のベビーブーム時代に生まれた、いわゆる団塊の世代と呼ばれる人たちが、75歳以上の後期高齢者となる2025年を目途に、介護保険の保険者である市町村や都道府県などが中心となり、地域の自主性や主体性に基づき、地域の特性に応じて構築していくことが目標となり、おおむね30分以内に必要なサービスが提供される日常生活圏域（具体的には中学校区）を単位として想定されている。

出題意図：

Purpose of Question：

修士論文作成のために必要な基礎知識を問うことを目的として作問を行った。